

平成 29 年 度

小学校教員資格認定試験  
教職に関する科目 (Ⅱ)

図 画 工 作

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 29 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊗ ⊗ ⊕ ⊕

以下の設問において「小学校学習指導要領」とは、「『小学校学習指導要領』(平成20年文部科学省告示第27号)第2章 第7節 図画工作」を指し、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』とは、「文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』(平成20年8月)」を指すものとする。

問1 次の文は、「小学校学習指導要領」における〔第1学年及び第2学年〕の「1 目標」に示された内容である。空欄の ① ~ ④ に入る適切な語を〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- |                                 |   |                  |
|---------------------------------|---|------------------|
| (1) 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、     | ① | を味わうようにする。       |
| (2) ② を楽しみ、豊かな発想をするなどして、        | ③ | や技能などを働かせるようにする。 |
| (3) ④ 作品などから、面白さや楽しさを感じ取るようにする。 |   |                  |

- 〔語群〕 A 造形活動      B よさや美しさ      C 表現活動  
D 造形遊び      E 身近にある      F 身の回りの  
G 想像力      H 体全体の感覚      I つくりだす喜び

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | ① | I | ② | C | ③ | G | ④ | E |
| イ | ① | B | ② | D | ③ | G | ④ | F |
| ウ | ① | B | ② | C | ③ | H | ④ | E |
| エ | ① | I | ② | A | ③ | H | ④ | F |

問 2 次の文は、「小学校学習指導要領」における「2 内容 A 表現(2)」の各学年の「アの事項」に示された内容である。空欄の ① ~ ③ に入る適切な語を〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

<p>〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>・感じたことや ① から、表したいことを見付けて表すこと。</p> <p>〔第3学年及び第4学年〕</p> <p>・感じたこと、 ① , ② から、表したいことを見付けて表すこと。</p> <p>〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>・感じたこと、 ① , ② , ③ から、表したいことを見付けて表すこと。</p>
--

- 〔語群〕 A 見ていること      B 見たこと      C 想像したこと  
 D 気付いたこと      E 考えたこと      F 発想したこと  
 G 構想したこと      H 伝え合いたいこと      I 話し合ったこと

- ア ① E      ② A      ③ G  
 イ ① D      ② E      ③ C  
 ウ ① C      ② B      ③ H  
 エ ① A      ② F      ③ I

問 3 次の文は、「小学校学習指導要領」における「2 内容 [共通事項]」の各学年の「アの事項」に示された内容である。空欄の ① ~ ④ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔第1学年及び第2学年〕	
・自分の感覚や活動を通して、	① などをとらえること。
〔第3学年及び第4学年〕	
・自分の感覚や活動を通して、	① , ② などの感じをとらえること。
〔第5学年及び第6学年〕	
・自分の感覚や活動を通して、	① , ③ や ④ などの造形的な特徴をとらえること。

[語群] A 材料            B 動き            C 強調  
           D 奥行き           E 質感            F 組合せ  
           G くり返し        H 形や色          I 形や色彩

ア ① I            ② A            ③ C            ④ G  
 イ ① H            ② F            ③ B            ④ D  
 ウ ① I            ② F            ③ E            ④ B  
 エ ① H            ② A            ③ G            ④ F

問 4 「小学校学習指導要領」における〔第1学年及び第2学年〕の「2 内容 A表現 (1)材料を基に造形遊びをする活動」に示された事項として誤っているものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。
- イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。
- ウ 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。
- エ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。

問 5 「小学校学習指導要領」における〔第3学年及び第4学年〕の「2 内容 B鑑賞 (1)身近にある作品などを鑑賞する活動」に示された事項として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 感じたことを話したり、友人の話の聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

ウ 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。

エ 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。

問 6 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第3章 各学年の目標及び内容 第3節 第5学年及び第6学年の目標と内容 A表現」に示された内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 特に、主題の発想については児童自身が行うことを大切にするとともに、視点や見方を広げる、自分の心に問いかけるなどの指導の工夫が重要である。

イ この時期には、奥行きや前後関係を意図的に表そうとしたり、再現的につくろうとしたりすることに関心をもつ児童も出てくるので、遠近法などを全員に指導する。

ウ この学年では、材料や用具などを扱える範囲が広がるので、使いたい用具から材料を選んだり、材料を試してから用具を選んだりするようになる。

エ 立体の表面で模様や色の組合せを工夫する、動きや仕掛けの面白さを絵に組み入れるなど、児童が思い付いたことを進んで取り入れられるような柔軟な指導が必要である。

問 7 次の文は、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第3章 各学年の目標及び内容 第1節 第1学年及び第2学年の目標と内容 A表現」における「身近な材料や扱いやすい用具」について示された文章の一部である。空欄の ① ~ ④ に入る適切な語を〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

「身近な材料や扱いやすい用具」とは、画用紙や ① などのかいたりつくったりできる材料、粘土や ② などの立体をつくる材料、クレヨン、 ③ などの描画材料、 ④ 、のり、簡単な小刀類などの切断や接合、接着ができる用具など、児童に身近で扱いやすいもののことである。

〔語群〕 A 木材            B 箱            C はさみ  
           D カッター        E テープ        F 色鉛筆  
           G パス            H 厚紙        I 新聞紙

ア ① I        ② B        ③ F        ④ E  
 イ ① H        ② A        ③ F        ④ C  
 ウ ① I        ② A        ③ G        ④ D  
 エ ① H        ② B        ③ G        ④ C

問 8 「学校教育法施行規則」(平成23年4月1日施行)の「別表第1(第51条関係)」に示された図画工作科の各学年における総授業時数として正しいものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 第1学年：70        第2学年：70        第3学年：60  
       第4学年：60        第5学年：50        第6学年：50  
 イ 第1学年：68        第2学年：70        第3学年：60  
       第4学年：60        第5学年：50        第6学年：50  
 ウ 第1学年：60        第2学年：60        第3学年：60  
       第4学年：60        第5学年：50        第6学年：50  
 エ 第1学年：58        第2学年：60        第3学年：60  
       第4学年：60        第5学年：50        第6学年：50

問 9 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第 2 章 図画工作科の目標及び内容」に示された内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、お互いに働きかけたり、働きかけられ  
たりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動である。

イ 「鑑賞する」とは、作品などを見たり触ったりする、表現して楽しかったことを話す、友人と  
話し合うなどの幅広い活動を示している。

ウ 指導の効果を高めるために鑑賞を独立して行う場合には、その必然性や児童の実態などを十  
分考慮し、児童一人一人が能動的な気持ちで鑑賞できるように配慮する必要がある。

エ 造形活動の途中で、自分たちの作品を相互に鑑賞する活動を形式的に行い、表現の意欲を高  
める必要がある。

問10 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第 3 章 各学年の目標及び内容」の中で、指導につ  
いて示された内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 指導に当たっては、鑑賞が、自分の感覚や行為などに基づいた受動的な活動であることに配  
慮する必要がある。

イ 表したいものの形や順序などを細かく決め過ぎると、児童の発想や構想の能力、創造的な技  
能などが発揮されない場合があるので配慮する必要がある。

ウ 指導に当たっては、あらかじめグループでつくるものを決めて分担をするのではなく、材料  
とかわる中から生まれた一人一人の気付きやイメージなどを基に、児童が自然に発想を交換  
したり、話し合ったりするような展開が重要である。

エ アイデアスケッチをかくことが一つの表現として完結してしまうと、表現はアイデアスケッ  
チに近付けるためだけの作業になり、発想や技能などの広がりや妨げることになる。手掛けな  
がら考えることは大切であり、何枚もアイデアスケッチをかけるようにしたり、表しながら段  
取りを考え直したりするなど、児童一人一人の特性に応じて構想できるようにする必要があ  
る。

問11 日本の美術教育の歴史について述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ  
選んで記号で答えなさい。

ア 山本鼎は、大正期に自由画教育運動によって、臨画を排斥する運動を起こした。

イ 山本鼎は、大正期に農民美術運動を起こした。

ウ 久保貞次郎は、戦後に創造美育協会を設立した。

エ 北川民次は、創造美育協会と対立する新しい絵の会を設立した。

問12 鉛筆について述べたものとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 鉛筆の芯の形状は丸形のみであり、その他の形状は現在製造されていない。

イ 鉛筆の芯の原料は、黒鉛と粘土を混ぜ合わせて焼成したものであったが、現在では桃の種を焼成したもので製造されている。

ウ 日本工業規格(JIS)では、鉛筆の芯の種類を示す記号として硬質がHから9Hまで、軟質がBから6Bまで、その他にHB、Fの二種類がある。

エ 鉛筆の濃度記号として、各製造会社での差異をなくすため、全ての製造会社で同じ芯が使用されている。

問13 次の文の空欄 ① ~ ⑤ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

紙版画では、貼り重ねた厚紙が ① の部分になり、そこに ② でインクをつけて刷る。③ などですると、インクのついた部分が転写され、まわりの窪んだ部分が ④ 残る。図案の発想、版づくり、刷りといった過程を通して、形の工夫、色のコントラスト、図案の ⑤ 反転、表面の表現効果(テクスチャー)、複数印刷といった版画の特性を体験できる。

[語群] A 紙やすり      B 上 下      C 白 く  
D ローラー      E スポンジ      F 左 右  
G 黒 く      H 凸      I 絵 筆  
J バレン      K 指      L 凹

ア ① B      ② I      ③ K      ④ G      ⑤ F  
イ ① H      ② E      ③ D      ④ C      ⑤ B  
ウ ① L      ② D      ③ A      ④ G      ⑤ B  
エ ① H      ② D      ③ J      ④ C      ⑤ F

問14 次の①、②の文章は、立体表現技法や造形要素について述べたものである。名称の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 立体表現技法で粘土などの可塑性のある素材を盛りつける技法のこと。
- ② 造形要素で重量感や膨張感など、体積・容積のもつ力の感じのこと。

- ア ① モデリング                      ② コントラポスト
- イ ① モデリング                      ② ヴォリューム
- ウ ① カーヴィング                   ② コントラポスト
- エ ① カーヴィング                   ② ヴォリューム

問15 立体表現の材料や用具について述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 石膏による立体制作では、「スタッフ」と呼ばれる<sup>しゅうろ</sup>棕櫚を素材とした補強材を使用する。
- イ 「<sup>かねじやく</sup>曲尺」とは、計測単位「尺」や「cm」などが記され、直角に作られた計測用具である。
- ウ 水粘土による塑像制作に使用する木製の「ヘラ」には、<sup>つげ</sup>黄楊や<sup>したん</sup>紫檀など油分を含んだ木材が適する。
- エ 粘土(terra)を焼いた(cotta)ものを「テラコッタ」(語源はイタリア語)といい、現在では技法及び焼成した赤土素材の名称として用いられている。

問16 障がい者の利便性に配慮する「バリアフリーデザイン」に対し、ロナルド・L・メイスはそれを超える概念として「ユニバーサルデザイン」を提唱した。メイスがまとめた「ユニバーサルデザイン7原則」のうち誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 使う上で自由度が高いこと。
- イ できる限り省スペースであること。
- ウ 使い方が簡単ですぐ理解できること。
- エ 間違いや危険を最小限に抑えること。

問17 次の文の空欄 ① ~ ④ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

色の三属性を3次的に表したものが色立体である。色立体を地球にたとえるなら、赤道部に ① (赤、黄、緑、青、紫などに区別される色味の性質)が円環状に配置され、 ① 環をつくる。球内部の中心軸には、縦方向に灰色群が順序よく配置され、これらは ② と呼ばれ色味をもたない色のことである。軸の一番上には ③ , 一番下には黒が置かれ ④ 段階がつけられる。

[語群] A 彩 度      B 有彩色      C 明 度  
 D 黄            E 色 相      F 無彩色  
 G 濁 色      H 白            I 赤

ア ① E      ② F      ③ H      ④ C  
 イ ① B      ② G      ③ D      ④ A  
 ウ ① B      ② H      ③ I      ④ E  
 エ ① E      ② B      ③ D      ④ G

問18 文中の空欄 ① ~ ③ に入る適切な語を、下の[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

樹木の樹幹の構造は軸に垂直な断面を ① という。樹幹の外側樹皮近く、水分が多い白く淡色の部分を ② と呼び、樹幹中央部、比較的水分の少ない赤みを帯びた濃色の部分を ③ と呼ぶ。

[語群] A 木端(こば)      B 木口(こぐち)      C 形成層  
 D 辺 材            E 心 材            F 木質部

ア ① A      ② C      ③ E  
 イ ① A      ② D      ③ F  
 ウ ① B      ② D      ③ E  
 エ ① B      ② C      ③ F

問19 次の表は焼き物の性質の違いを区分したものである。表の中の空欄 ① ~ ③ の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

素地及び釉			例
土器	多孔質 吸水性あり	釉なし	縄文・弥生土器
陶器		釉あり	①
せっき器	緻密質 吸水性なし	素地色あり	②
磁器		素地白色	③

- ア ① 笠間焼      ② 清水焼      ③ 瀬戸焼  
 イ ① 常滑焼      ② 唐津焼      ③ 九谷焼  
 ウ ① 美濃焼      ② 萩焼      ③ 砥部焼  
 エ ① 益子焼      ② 備前焼      ③ 有田焼

問20 尾形光琳について述べたものとして誤っているものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア やまと絵屏風を革新した俵屋宗達の影響が指摘されている。  
 イ 代表作に《紅白梅図屏風》《燕子花図屏風》などがある。  
 ウ 江戸で活躍し、弟子に鈴木其一などがいた。  
 エ 小袖のデザイン案を通じて装飾美術に貢献した。